

令和4年度 主要事業評価シート

① 基本事項	計画コード	22097	事業名	行政情報番組提供事業		評価分類	A1	
	事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 補助等 <input type="checkbox"/> その他()					担当部署	
	施策体系	施策の大綱	05:市民力・地域力の活性化		予算科目	会計	01:一般会計	
		基本施策	02:市民参画・交流活動の促進と協働の推進			款	02:総務費	
		施策の方向	03:広報・広聴の充実			項	01:総務管理費	
		重点プロジェクト	-			目	02:広報活動費	
事業期間	H 15 年度	~	R - 年度	主な根拠法令等		-		
部		政策部						
課		広報秘書課 広報G						

② 事業概要 (P)	事業の必要性(経緯・背景等)	事業の対象(誰に、何に対して)	事業の目的(どのような状態にしたいのか)	事業の内容(どのような取組を行うのか)
	市の施策や魅力を市民に理解してもらい、主体的にまちづくりに関わる人を増やすため、動画の特性を生かした市民参画によるケーブルテレビ放送によって、分かりやすい情報発信を行う。	市民	ケーブルテレビ放送を通じた情報発信により、市民が行政情報をより理解するとともに、番組制作により多くの市民が関わることで、まちづくりに対する市民参画意識が高まる。	動画の特性を生かし、市の施策や事業、イベント情報等をコンテンツとした番組を毎週制作し、ケーブルテレビで放送する。また、広報サポーターや学生アナウンサーなど、市民参画により、親しまれる番組を制作する。

年度		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
③ 事業の実施状況 (P・D)	事業計画	○行政情報番組制作及び放送管理 ○文字情報の提供及びシステム管理 ○広報サポーター等の活用	○行政情報番組制作及び放送管理 ○文字情報の提供及びシステム管理 ○広報サポーター等の活用	○行政情報番組制作及び放送管理 ○文字情報の提供及びシステム管理 ○広報サポーター等の活用	○行政情報番組制作及び放送管理 ○文字情報の提供及びシステム管理 ○番組及び文字情報放送機器等の更新 ○広報サポーター等の活用、スタジオ改修	
	活動実績 (計画通り実施できたか)	新型コロナ関連の補助制度の紹介など、年間53週分の番組を制作・放送した。番組司会以外でも広報サポーターの出演等(16回)により番組制作を行った。特集番組では、駅前再開発事業の完成や亀山ブランド第2弾の決定とともにそれらに関わる人々の姿やコメントを紹介する番組を制作した。文字情報は、定期放送174件、選挙情報を随時放送した。				
計画額	事業費	22,400千円	22,300千円	22,200千円	22,400千円	22,700千円
		国・県支出金				
		地方債				
		その他				
	一般財源	22,400千円	22,300千円	22,200千円	22,400千円	22,700千円
決算額	事業費		21,936千円			
		国・県支出金				
		地方債				
		その他				
一般財源		21,936千円				
①期間内事業費(R4-7)		89,700千円	②期間外事業費(R8-)	-	①+②総事業費	-

(令和4年度予算額の内訳)

前年度からの繰越額	0千円
当年度の最終予算額	22,300千円
次年度への繰越額	0千円

指標名	説明等	種別	単位	区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
④ 指標 (C)	年間番組制作数	活動	番組	計画値	53	52	52	52
				実績値	53			
	番組制作への市民参画数	成果	件	計画値	65	65	65	65
				実績値	69			
				計画値				
				実績値				

⑤ 成果 (C)	事業実施により得られた成果(誰に(何に)対してどのような効果があったか)
A	新型コロナ関連の補助制度の紹介など、臨機応変に番組を編成したことで、市民が必要な行政情報を届けることができた。広報サポーター(44回)や学生アナウンサー(小学生:2回・中学生:3回・高校生:4回)の出演等により、市民に親しまれる番組づくりにつなげることができた。また、特集番組の制作に対して、関係者に参画いただくことで、まちの魅力を広く発信するとともに、まちに対する愛着の醸成につなげることができた。
	十分な成果を得た

事業の対象	事業の目的
市民	ケーブルテレビ放送を通じた情報発信により、市民が行政情報をより理解するとともに、番組制作により多くの市民が関わることで、まちづくりに対する市民参画意識が高まる。

(再掲)

⑥ 課題 (C)	事業の達成状況等を踏まえた課題事項
	市民参画・交流活動の促進に向けて、広報サポーターや学生などの出演による番組づくりを継続し、幅広い世代に親しまれる番組放送を行う必要がある。また、コロナ禍からの環境の変化に対応し、地域での行事や祭りなどの取材を通じて、本市の魅力である人同士のつながりを感じてもらえるような番組を制作する必要がある。さらには、市民がまちの魅力を再認識し、まちに対する愛着や誇りが高まるような番組を制作する必要がある。

⑦ 事業の展開 (A)	方向性
	継続(現状維持) 現状どおり事業を継続する
	改善・見直し内容
	令和5年度で対応する(した)もの
	引き続き、広報サポーターの募集を行い、市民参画による番組制作を行う。また、コロナ禍を経て活動が再開される納涼大会など地域の行事を取材し、地域資源や人同士のつながりなどをまちの魅力として発信する。
	令和6年度以降で対応するもの
	まちづくりに対する市民参画意識を高める取り組みの一つとして、広報サポーター制度を継続して運用するとともに、新しい人材の確保に努める。令和5年度に整備予定の亀山公園の遊具など、新たな魅力を発信するような番組制作を検討する。

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
【履歴】	成果判定	A		
	事業展開	継続(現状維持)		

1次評価者	政策部 広報秘書課 広報GL 波多野 祐一
最終評価者	政策部 広報秘書課長 末崎 照美